

具体的な取り組みの方策に関する 各地商工会議所の取り組み事例

平成 26 年 6 月 19 日
日本商工会議所

（1）地域が目指す観光振興の目標を共有し、実施体制づくりに取り組もう

①明確なビジョンの策定と共有

まちづくりビジョンの策定〔前橋商工会議所（群馬県）〕

前橋商工会議所は、10 年後に目指す前橋の姿と、その実現に向けてどのような取り組みを進めるべきかについてまとめた、中・長期ビジョンを策定した。まちづくりの一環として観光振興を掲げており、現況と課題解決に向けた今後の方向性のほか、具体的な取り組み内容を明記している。

観光分野では、同商工会議所の観光振興委員会が行政や前橋観光コンベンション協会と連携し、「まえばし・赤城」を核とした観光振興を図るための方策を提示している。

まち全体を劇場に見立てた「弘前感交劇場」の提唱〔弘前商工会議所（青森県）〕

弘前商工会議所は、観光客を観客、春夏秋冬の弘前を舞台、白神山地を舞台背景、りんご園やさくらまつりを大道具、そして弘前市民を助演者に見立て、観光客と地域住民がともに共感・共鳴できる新たな観光のスタイル、「弘前感交劇場」を提唱した。

このビジョンのもと、「りんごの樹の下でりんごの花見を楽しむ」「カクテルの街弘前」など、地域資源を活用した様々な観光プログラムを生み出している。



「りんごの花見」イベントを実施

②地域が一丸となって取り組むための体制の構築

幅広い分野のメンバーを集め地域活性化委員会を発足〔御坊商工会議所（和歌山県）〕



地域活性化委員会の会合の様子

御坊商工会議所は、県や市、観光協会、大学、鉄道会社、地元の語り部メンバーなど、幅広いメンバーからなる地域活性化委員会を発足し、まちの活性化や観光振興に取り組んでいる。

これまでに、まちなかに案内板や紀州材を使ったベンチを設置したほか、地元住民や周辺地域の人々を対象に「寺内町ウォーク」を開催して、語り部の育成等にも取り組んでいる。地域住民内で観光への意識を高めることで、来街者数の増加につなげている。

行政・事業者・NPO・住民を巻き込んだ着地型イベントの開催〔延岡商工会議所（宮崎県）〕



まちあるきイベントの様子
まちにプラスの変化が表れている。

延岡商工会議所は、平成 22 年度から、まちなかを舞台にした着地型観光イベント「ひむかのくに えんぱく 延岡感動体験泊覧会」を開催している。

商工会議所が事務局となり、行政や観光協会、NPOのほか、観光関連産業や漁業組合の事業者も巻き込んだ実行委員会を発足した。プログラムの企画立案には、市民も参画している。

イベントの実施により、イベント期間外の集客も増え、地域産業の活性化につながっているほか、民泊事業に着手する住民の誕生や町内美化の促進等、

③取り組みを促進するための人材の協力・活用

キーパーソンを先導役とする地域の結束強化〔佐原商工会議所（千葉県）〕

長年、「佐原の大祭」の運営に携わってきた佐原商工会議所の顧問（前会頭）らが中心となり、「歴史的なまち並みや祭魂、風情ある川の再生により、江戸以上の文化を佐原に築きたいと願った先人達の思いを体現する」ことを地域全体の目標として、その共有化を図った。「NPO小野川と佐原の町並みを考える会」「佐原おかみさん会」等、20 余りの団体が共通の目的に向かい、それぞれの取り組みを展開している。



佐原の大祭

検定事業による地域の観光を担う次世代の育成〔松山商工会議所（愛媛県）〕



「ふるさとふれあい塾」の様子

松山商工会議所は、松山観光文化コンシェルジュ推進事業として、市民公開講座「ふるさとふれあい塾」を松山大学の単位対象講座として開講した。

ふれあい塾は、松山市の観光施策や歴史・伝統行事等を学ぶカリキュラムとなっており、一定の受講で「松山観光文化コンシェルジュ検定」の中級の認定証を授与するとともに、ガイドとして登録できる仕組みを構築している。

現場のおもてなし力向上を目指した事業の実施〔札幌商工会議所（北海道）〕

札幌商工会議所では、外国人観光客入込数の急速な増加を受けて、市内観光関連事業者の接客員・販売員等を対象に、接客向けの中国語や英会話のほか、各国の文化・習慣等を学ぶ研修事業を実施している。

さらに平成 25 年秋からは、札幌観光協会との共同事業として、外国語を話せる接客員・販売員にオリジナルの「語学バッジ」（英・中・韓）を配布した。デパート等では外国人客との会話がスムーズに行えるようになったなど、具体的な効果が表れてきている。



英・中・韓の3カ国語学バッジを製作

（2）地域の特色を活かした観光の創造を目指し地域資源を磨き上げよう

「昭和の町づくり」で商店街を再生〔豊後高田商工会議所（大分県）〕

豊後高田商工会議所では、5年をかけて、徹底的にまちの個性を探求し、商店街が元気だった昭和 30 年代をテーマにしたまちづくりに行き着いた。

全国 300 件の事例を研究し、「昭和の町」づくりの再生素材の検証と再生構想を策定。昭和の建築、歴史（一店一宝）、商品（一店一品）、商人の4つの再生をテーマに掲げ、総延長 500m、100 軒の商店街を段階的に再生させることに成功した。

商人が住み着く「生きた」商店街の再生は、事業者のモチベーション維持にもつながっており、人口 2 万 4,000 人のまちに 30 万人以上の来街者を呼ぶにぎわいを見せている。



「昭和の町」への再生で来街者を呼ぶ

専門家の声を取り入れ新たな海鮮丼を開発〔日南商工会議所（宮崎県）〕



地域資源を活かし「カツオ炙り重」を開発

日南商工会議所では、外部から招聘した専門家からのアドバイスを基に、「その地域でしか食べられないこと」にこだわり、国内有数の漁獲量を誇るカツオを使った炙り重を開発した。新鮮なカツオを使用するとともに、新しい発想として、漬けカツオを七輪（木炭）で炙る独特のスタイルを構築した。珍しさが人気を呼び、今年年間で 3 万食が食される人気メニューに成長し、消費者の約 4 分の 3 が市外からの観光客となっている。

（3）観せる対象の明確化と持続的な取り組みでリピーターを獲得しよう

ターゲットを絞った誘客で参加者数のアップに成功〔奄美大島商工会議所（鹿児島県）〕

奄美大島商工会議所では、平成 21 年から「奄美観光桜マラソン」を実施している。このマラソン大会の特徴は、奄美ならではの風景を満喫できるスポットをコースに組み込むとともに、特産品を参加者にふるまう等、地域を味わえる大会になるよう演出しているところにある。スポーツ関連雑誌に募集広告を掲載しているほか、域外の県人会への周知等、ターゲットを絞った集客作戦を展開することで、県外からの参加者が増え、宿泊増につながっている。



奄美の魅力を満喫できるマラソン大会

恒例イベントに新たな楽しみをプラスしリピーターを獲得〔諏訪商工会議所（長野県）〕

諏訪商工会議所では、平成 17 年より諏訪湖畔に点在する 15 の美術館・博物館を夜更けまで開館するイベント「諏訪の長い夜」を、22 年からは湖周一体となった「諏訪湖まちじゅう芸術祭」を開催している。25 年には、これまで「長い夜」の開催時のみ利用可能だった全館共通パスポートを、「諏訪湖まちじゅう芸術祭」の期間中にも利用できるようにした。

パスポートを活用し、スタンプラリーや特典を付与する等、新たな楽しみ方を提供することで、まちの回遊性を高めるとともに、過去の来場者へのダイレクトメール等を通じて、リピーター客の獲得に努めている。



全館共通パスポートでリピーター増を狙う

（4）広域連携で広範囲からの誘客と周回性の向上を図ろう

①商工会議所間の連携による広域的取り組みの促進



工場夜景の魅力を複数地域で共同発信

広域で工場夜景の魅力を PR〔室蘭（北海道）、川崎（神奈川県）、四日市（三重県）、徳山、新南陽（山口県）、北九州（福岡県）の 6 商工会議所〕

臨海部に工場を有する 6 商工会議所は、各地持ち回りで「全国工場夜景サミット」を開催している。事例発表やフォトコンテスト、開催地における工場夜景ツアーの実施等を通して、地域間の情報交換をはじめ、旅行業者等に工場夜景の魅力を広く発信している。

商工会議所が連携して歴史的街道「萩往還」を再生〔山口、防府、萩（山口県）の3商工会議所〕

山口、防府、萩の3商工会議所とそれぞれの行政、観光協会等が連携して、全長約53kmの「萩往還」ルートマップや、歴史・文化などを紹介するガイドブックを作成した。

作成にあたっては、ウォーキングイベントの参加者を対象にしたアンケート調査やモニターツアー等を通じて、お薦めポイントの整理等を行った。

その後、3地域が連携して組織した「萩往還観光誘致制度創設委員会」等が、地域間の連携事業を継続している。



県内の3商工会議所で街道観光を推進

九州と京阪神で観光関連の情報交換会や協力事業を実施〔京都（京都府）、大阪（大阪府）、神戸（兵庫県）、福岡、北九州（福岡県）、佐賀、鳥栖（佐賀県）、長崎（長崎県）、熊本（熊本県）、別府、大分（大分県）、宮崎（宮崎県）、鹿児島（鹿児島県）の13商工会議所〕

九州地域と京阪神地域の観光交流を目指し、九州（福岡・北九州・佐賀・鳥栖・長崎・熊本・別府・大分・宮崎・鹿児島）および京阪神の観光事業担当者による情報交換会を年2回、開催している。また、福岡で年1回開催される観光商談会に、メンバー商工会議所がバイヤー派遣や来場者募集の協力を行っている。

②連携を促進する「観光トライアングル」の形成

道央3地域で広域ビジョンを策定〔苫小牧、千歳、恵庭（北海道）の3商工会議所〕

道央に位置する3地域での連携強化を目的に、広域ビジョンを策定した。自然体感型観光ルートの開発や、域内に点在する「道の駅」の活用、3市の海外における姉妹都市との連携強化等を掲げている。

空港を起点にした周遊コースを外国人にPR〔大津（滋賀県）、京都（京都府）、大阪（大阪府）、神戸（兵庫県）、奈良（奈良県）、和歌山（和歌山県）〕



関空起点に複数の府県を合同でPR

大阪、京都、神戸、大津、奈良、和歌山の6県庁所在地商工会議所では、中国人の経済団体幹部および現地メディアを招聘し、3泊4日の視察ツアーを実施した。

この視察ツアーは、点としての地域視察ではなく、面としての地域を実際に見てもらうことで、誘客拡大を図ることを目的に行ったもの。関西国際空港を起点に、①京都・奈良・大津、②和歌山・大阪・神戸の2つのモデルコースを用意し、効率的・効果的に地域を案内した。

以上